

家政学領域に家政技術分類表 (CHE) を利用することの有効性について(2)

— 科学技術分類表 (CST) との比較において —

大妻女大家政 安田順子、大竹智恵子、大森正司、岡田安代、岐阜大教育 長野宏子  
東京農大 加藤みゆき、音村典夫、大妻高校 吉田レゲ子

目的 今回作成された家政技術分類表 (CHE) は、科学技術分類表 (CST)、農業技術主題分類表 (ASIC) の考え方を基本に UDC、NDC 等を参考に改善されたものである。本研究は、家政学領域に CHE を適用した場合の有効性を検討することを目的とする。

方法 家政学雑誌に掲載された研究課題を、CHE を用いて主題分析を行い、インデックスを付与した。付与された標数の上位二桁、すなわち、大項目と中項目を分類集計機能用カードにマークし、外国文献社製パスキーで集計した。この結果を用いて要素技術の出現頻度、度数分布曲線等を作成し、さきに報告した CST による分析結果と比較検討を行った。

結果 1) CHE を用いて分析した場合、研究課題に対して、CST よりも広く、より多い標数が付与された。2) CHE を用いた場合には、一つの研究課題に付与されている要素技術の数は多くなっており、研究課題の 75% をカバーしている要素技術の種類も増加していることが認められた。以上の結果 CHE は家政技術に対して、より詳細的確な分析が可能であり、家政技術の分析にとりて CHE は CST よりも優れていることが示された。